

大和市民活動推進補助金

公開選考会



開催：2004.10.17
発行：玉川まちづくりハウス
・大和市民活動課

10月17日(日)に、第一回目の市民活動推進補助金公開選考会が開催されました。春に行われた協働事業の公開検討会に続き、秋には市民事業の公開選考会が動き出すこととなります。10月30日には協働の拠点である市民活動センターもオープンし、いよいよ大和市における新しい公共の創造の取り組みも本格化しつつあります。資金部会リーダーの宇津木委員のあいさつから公開選考会は始まりました。

大和市民協働推進会議資金部会リーダー宇津木委員

『大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例』の前文には、それぞれが所有している時間、知恵、資金、場所、情報を社会に開くことで社会資源を生み出し、それを皆が有効に活用することで新しい公共が更に広がるができるという趣旨が述べられています。その中の資金の問題を優先して解決しようとして今年4月に『新しい公共を創造する市民活動推進基金』の仕組みができました。

この基金の特徴としては、

マッチングギフト方式で、市民から集められた寄付と同額を市が上乘せし、市と市民が協働でつくっていくという基金です。

それぞれの市民活動が自立できるように、補助金の趣旨を考えています。当初の金額は少ないですが、みんなの力で大きく育てていくことを考えています。

問口を広くしようということで、人件費も含めて市民活動に関わるいろんな経費を対象にしています。経費の考え方も、インカインドとしてボランティアなどの部分も含めて算出してもらいます。

今日ここに集まっている皆様方は、新しい公共をつくる市民活動をしている仲間です。大和市の新しい公共をより良いものにしていきましょう。

続いて、それぞれの選考委員の抱負が述べられ、選考会がスタートしました。各団体からのプレゼンテーション後、意見交換をし、申請団体全部の補助金助成が決定しました。



選考委員のあいさつ

● 平塚恵一委員長

(協働推進会議委員・学習塾経営)

公開選考会を始めるにあたり、全く初めてのことなのでどうなるのか不安もあります。皆さんと一緒に、公開選考会をつくりあげていきたいと思っています。皆さんの知恵をプラスすることによって多くのことが実現できると思います。今日の選考会を通して、また来年が見えてくるような選考会にしていきたいと思っています。

● 手塚明美委員

(NPO法人藤沢市市民活動推進連絡協議会理事・事務局長)

隣接している市から来ていますので、大和市の事情は詳しくわかりませんが、ちょっと意地悪っぽく見えてしまうかもしれませんが、税金を使うということを皆さんに意識してもらうことを中心に、公平な審査をしたいと思っています。

● 益永律子委員

(NPO法人茅ヶ崎市民活動サポートセンター管理運営委員会常務理事・事務局長)

同じくらいの人口規模の茅ヶ崎市からきました。新しい公共の担い手を支援する大和市の補助金がとてもうらやましい。公金が使われるので、皆さんの後押しになり、多くの人に支持されるものに発展されるように期待しています。

● 渡辺精子委員

(協働推進会議委員・希望塾 - アメリカ・中国・日本の青年交流・中国南開大学日本研究員客員研究員)

皆さんの活動が充実し、大和市のため、皆さんのためになることを期待して選考したいと思います。

● 清水和男委員

(大和市民経済部長)

自治基本条例の中では、大和市は日本人も外国人も大和に居住する人も通学する人、通勤する人全てを市民と定義してします。こうした視点から市民活動を応援していきたいと思っています。

はじめに、応募者による活動企画内容の発表がありました

～それぞれの応募事業について、選考委員の質問3分を含め10分で発表していただきました～

1

平成17年度版 手で読む点図日めくりカレンダー製作

(申請者：点図サークル・オーロラ 元木裕子)

- ◆ 点図とは大中小三種類の丸を組み合わせ、視覚障害者が触って読むもの。
 1. 点字を読める人が使う視覚障害者のための、本の挿し絵や教科書の図、塗り絵など。
 2. 点字を読めない人中途失明のために、点図で数字やカナのフォントをつくり、カレンダーや電話帳、カラオケの歌詞などを作成。
- ◆ 今までは本の挿し絵が省略されたり、どうしても必要な時は手作業や立体コピーだったが、コストや時間がかかった。その点、パソコンに点図はコストも安く、普通印刷も可能、データ管理も簡単。
- ◆ パソコン(普通のもの)、エーデル(点図のフリーソフト)、点字プリンタ(約100万円)を使用。
- ◆ 昨年春、点字プリンター購入を期にサークルを立ち上げるが、活動場所が個人宅であること、技術を伴うので誰でもすぐできるものではないので、活動メンバーを増やすことが難しい。
- ◆ カレンダーや日めくりを考え出し、使ってもらっているが、一度使った方からは毎年リクエストがある。
- ◆ 点図の売り上げは他市ばかりで大和市内では1人。県内2人。
- ◆ 市内には点字の読めない視覚障害者がたくさんいるので、今回は多くの部数を作成して、希望者に無料配布したいと思い、この助成に応募。これを機会にもっと多くの人に点図を広く知ってもらい、利用者やボランティアを増やしたい。



申請内容

- 事業の目的：中途失明で点字の読めない視覚障害者の方へのサービス
- 事業の内容：指でなぞって数字やカナを読む日めくり・壁かけカレンダーの製作
- 対象者：市内在住及び他地域の希望される方
- 事業期間：H16.10.1～17.3.31
- 活動場所：主に大和市内
- 拠点場所：大和市内
- 事業の効果：情報を得る機会の少ない中途失明の方に、ほんの少しですが、晴眼者と同じ情報を提供出来る。
- 補助希望額：30,000

～選考委員からの質問～

- 1** 今回、申請金額を抑えているのはなぜか？
(申請者) 実費をいただければと思った。どれぐらいの人に使ってもらえるかわからないし、とりあえず、用紙を買うお金が欲しかった。
- 2** 点図を知らなくて、インターネットで調べたら手間がかかるものだと書いてあった。そこに使われているボランティアの労力はもっと設定をして良かったのかと思った。これからニーズが高まって、そういう仲間が増やしていけたらいいと思うが、これから先をどう考えているか？
(申請者) 点図プリンターは大きくて音が大きい。場所があれば増やしていきたいが、まずは場所を確保することが先決と考えている。
(委員) そう考えているなら今日がいい機会。場所を提供してくれる人やPRしてくれる人を募ったらよいのではないか？
(申請者) 皆様、そういうお知恵を拝借できる方がおられたらお願いします。

- 3** 大和市内では1人しか活用していないという説明があった。今後ネットワーク、輪を広げていくことについてどう考えているか。どのように広げ、視覚障害者の方にこれを知ってもらうか。
(申請者) 身障協会の視力部にこういう方が所属していると思うので、そちらで新年会や忘年会などで紹介してもらったりしたい。大和市内ではないが、講習会などを頼まれていたりするので、これからだと思っている。



2

地域福祉サービスの拠点の創出

(申請者:(仮称)特定非営利活動法人 ひよどり 設立代表 川名 栄)

- ◆ 高齢者のデイサービス「デイ南林間なんてん」の開所を目指して活動し、8月に南林間6丁目に平屋建て(100坪、建坪30坪)の建物を借りた。
- ◆ 8月の終わりに建物を使ってバザーを実施。70名以上が参加。共感してくれた人に(仮称)ひよどりの会員になってもらい、改築費用を借入金として貸してくれるよう依頼。現在62名の会員、目標は70名。うち23名で立ち上げを行っている。開所後にワークをする人も10名ほど集まり、研修中。
- ◆ 12月にNPOの認証がおりる予定。開所は1月を予定。
- ◆ なんてんの花言葉は「良き家族」。暖かな家庭的な場所に...
- ◆ 特別な場所ではなく、住み慣れたまちの中に、普通の家で美味しく食事ができるようにしたい。スケジュールにしばられることなく、家にいるのと同じようにしたいことをし、ゆっくりしてもらいたい。近所の人にも気軽に立ち寄ってもらえるような場所にしたい。地域に根ざした場所にしたい。
- ◆ 介護保険利用以外の人にもお昼とおしゃべりを楽しんでもらうランチタイムサービス、デイサービスを体験してもらう1日利用サービスも考えている。また、介護に携わる家族、地域の方々への支援サービスとして、介護の講習会、介護食の料理教室、体操教室、趣味の場などの提供したい。
- ◆ 自治会にも加入。福祉に熱心な地域なので、声を聞きながら参加させてもらい、地域の一員として役立ちたい。
- ◆ 将来は建物利点を活かし、高齢者、子ども、障害者、いろいろな方々の交流の場にしたい。福祉に興味のある方々をボランティアとして受け入れたい。
- ◆ 小さな助け合い、支え合う力が大和の町を豊かにしていくと信じて、この事業を育てていきたい。



申請内容

- 事業の目的：高齢になったり、障がいをもった市民が、住み慣れたまちや地域で暮らしていくことをサポートし、また、地域福祉サービスの拠点として、生活支援サービスや介護保険制度に基づく事業等を行う。
- 事業の内容：NPO法人格の取得。借家の改築。生活支援サービスや通所介護事業の実施。
- 対象者：主に大和市民
- 事業期間：H16.4.1～17.3.31
- 活動場所：主に大和市内
- 拠点場所：大和市内
- 実施体制：(仮称)NPO法人ひよどりの会員48名(目標70名)(仮称)ワーカーズ・コレクティブなんてんの会員約10名(NPO法人ひよどりの会員と重複者あり、目標25名)
- 事業の効果：市民自らが「老い」「障がい」を自分のこととして考え、たすけあい、支え合うことで、大和の福祉を豊にすることに寄与したい。
- 補助希望額：50,000

～選考委員からの質問～

1 地域の場所、対象エリアはどの辺を想定？

(申請者)なんてんに来てみたい、使ってみたい人であれば住んでいる場所は関係ない。人手をかけて出来る限りのことをしたい。だが、基本的には住み慣れた地域ということで、だから小さくした。これを1つで終わらせるのではなく、ひよどりがなんてんの実をつまんでいるんな所に種を落とすように、いろんな所につくって、いろんな人に利用してもらいたいと思っている。そんな願いを込めて名付けた。

2 ワーカーズコレクティブと事業の関係は？

(申請者)これからデイを運営していく働きたい人、改築部分で支援してくれる人、地域の情報を下さる人全部を含めてNPO法人ひよどり。ワーカーズコレクティブはパーツの中の一つ。

(委員)そちらの事業形態はどうなるのか？

(申請者)ワーカーズなので、皆で出資金を出し合って、運営すべてを担っていく。組合形式。

3 NPO法人の認証を取得するということで、年間事業計画で収支9,290,000円というのが出てくるが、特にこの補助金を改めて申請した趣旨は？なぜ9,290,000円の中の5万円を申請したのか？

(申請者)大きな内訳は改築630万、備品購入100万、家賃の発生が8月からで開所までに約130万。介護保険の場合、事業所として認定が降りてからお金が入ってくるまでに2ヶ月。現在、活動に使うお金が0に近い。一番力を入れたいのは研修で1日2000円。ワーカー希望が12～13名で、4回くらいの研修に行きたい。この5万円は研修費と会議のコピー等に利用したい。

3

スポーツ医学及び栄養学講座

(申請者：特定非営利活動法人地域総合スポーツ倶楽部・リアライズ 市川新二)



- ◆ バスケットボールを中心とした、地域密着型総合型のスポーツ倶楽部で、現在は小中学校をメインとしたバスケット教室を開いている。スポーツクラブという形で申請。私は元全日本のバスケットメンバー。
- ◆ 10年ぐらい前、文部省で地域密着型スポーツクラブ構想があったが、行政でもどうしたらよいか分からなかった。底辺からお年寄りまでが、いろんな形でスポーツに参加できる仕組みを考え、3年前に東京都で同じNPOを立ち上げ、5年前から松山でもバスケット(オリンピック選手ばかり)を立ち上げた。
- ◆ メインとして、子供達の栄養学や、怪我した時にどう父兄が処置したらいいかの講習を、専門家や医者呼んで開きたい。子供の教育を含めて、いろんな講座を年6~8回開きたい。
- ◆ スポーツは基本が大事。全日本のトップレベルの選手が地域で基本を教え、子供達はそれを持って学校でプレイする。勝つ手段を教えるのではなく基本を教え、自分のチームで活躍してもらおう。
- ◆ お母さんに必要なものは栄養学、治療学、健康、教育。「ごめんなさい」「はい」がきちんとと言える子供に育てるための教育をお母さんにし、一緒に子供を育て、一緒にいい社会をつくっていききたい。

申請内容

- 事業の目的：スポーツをする子供達の父兄を対象に怪我の予防・応急処置の方法、またスポーツ選手、特に育ち盛りの子供達に必要な栄養(通常の食事や運動前の食事、運動中のエネルギー補給)などの正しい知識を持つことによる健全な肉体で思う存分にスポーツを楽しんでもらう事。
- 事業の内容：年間6回の講座を実施し、講師として医師、プロトレーナー、関連メーカーの担当者を予定。
- 対象者：主に大和市民
- 事業期間：H16.4.1~17.3.31
- 活動場所：主に大和市内
- 拠点場所：大和市内
- 実施体制：講師1名、補助、会場整理として当法人から2名。
- 事業の効果：正しい知識による怪我の防止や、必要なエネルギー摂取により健全な身体をもってスポーツに取り組み、その子の持つ能力を最大限に生かせる環境づくりと、親子で一緒に取り組むスポーツにより親子の絆を深める。
- 補助希望額：30,000

~選考委員からの質問~

1 申請書の対象に父兄、と書いてあるが、お弁当をつくるのはお母さんも多いので、出来れば保護者に。参加人数は何故20人と予想したのか？

(申請者) 私のチームには生徒が30人。総合型だが、サッカー等の父兄と全く連携が取れていない。今、対象としているのは30名の生徒のうちの来れるであろう人数で20名。

(委員) せっかく今回の基金を活用するのなら、もう少し多くてもいいのではないかと。

(申請者) 一応、案内はサッカー協会とか野球、バレーボールなどにも出すつもり。講師料は2万だが、本当はそれでは済まない。スポーツは縦社会で「お前、ちょっと来い」と呼べる。でも出来れば本当は50人、100人集めてきちんとした報酬を払いたいと思う。今回は最初なので縦社会を利用してやって、発展させていきたい。

2 NPO法人リアライズが、総合スポーツ倶楽部なのになぜバスケットなのかが疑問。日常的な活動は、補助申請されているスポーツ医学及び栄養学講座なのか、選手の育成なのか？

(申請者) 今はバスケットを教えているが選手育成ではなく、スポーツを通して礼儀、栄養学をそれを通して教えている。また高齢者の体操も考えていきたい。

(委員) 今回の補助申請は新たにスポーツ医学及び栄養学の講座を取り入れようということか？

(申請者) 怪我した時の対処方法、どんなものを食べたらいいか、子どもだけではなく父兄を対象にしてやっていきたい。

3 特定チーム内でのお母さんとの連携は取りやすいが、地域の場合はどうやって連携するのか？

(申請者) 今のチームは大和市のいろんな地域から30人来ている。その父兄と話す中で必要だと認めてもらっている。

4 NPO法人について聞きたい。団体の設立、年間の予算、会員数を知りたい。

(申請者) 設立は昨年11月認可。会員数は30人。年間予算150万円ぐらい。

4

コミュニケーションサポート事業

(申請者：NPO法人カウンセリングコミュニケーションサポートセンター
高橋早苗)



- ◆ テレビ、テレビゲーム、携帯メール、話さなくても用が済む。また、バーチャルリアリティゲームで、痛みを知らない人間が増えつつあることから人間としてのコミュニケーションを持ちたいとスタート。
- ◆ 子どもたちを抱える親、現場の教師のとまどい、苦悩は計り知れない。
- ◆ かつて、近所のお年寄りが叱ったり注意したり教えてくれたり、いろんなことを話してくれて、地域ぐるみのしつけ、教育、子育てがあった時代があった。今はそれがなく、全部学校の教育へ任せているが、現場の教師自身がどこに相談していいかわからない。教師同士の軋轢もある。専門に相談する場がない。ノイローゼ教師も多い。
- ◆ 精神科の門をくぐるのは勇気がいるし、その手前の中間機関がないというのが現実。現場を知っている教師が、心理士やカウンセラーの資格を取って、現場を知っている人がまずカウンセリングをしていく。(自費で資格を取得)
- ◆ 前期(幼児期)と後期(思春期)に講座を分け、30名定員。前期の場合、お母さんや教師を参加してもらい、遊びのことなど経験者に講師を依頼。後期は専門的なことを学ぶ形。後期は11月から。
- ◆ 少しでもふれあいを見付けていく、コミュニケーションをしていく。
- ◆ 語り、読み聞かせにお年寄りも参加し、子ども時代の民話などを語ってもらう。企画中。
- ◆ キッズルームを用意。専門員が必要。
- ◆ 経費が自腹では持ちきれないので補助して欲しい。

申請内容

- 事業の目的：本事業は、地域市民に対するカウンセリングスキルに関する支援を中心に、一人一人のコミュニケーション能力の向上とリレーションシップ作りに寄与するため、カウンセリングの研修、子育て支援に関する講座、家庭、教育、地域の連携を図るシンポジウムを行うことにより、地域コミュニティ全体の利益の増進に寄与することを目的とする。
- 事業の内容：思春期講座の開催。カウンセリング基礎講座。子供の未来を開くシンポジウム(仮称)
- 対象者：主に大和市民
- 事業期間：H16.10.1～17.3.31
- 活動場所：主に大和市内
- 拠点場所：大和市内
- 実施体制：講座に関しては、生涯学習センターを予定。
- 事業の効果：子育て不安を抱えるお母さん方に、専門家のお話を聞くことによる不安解消や莊嚴交流により励まし合う関係が作られる。また、人間関係の悩みを抱える方にカウンセリングのコミュニケーションスキルを提供することにより、人間関係の円滑化が図れる。また、地域のなかで共に、子どもたちを育てていこうとするコミュニティ意識を育てることができると考えている。
- 補助希望額：200,000

～選考委員からの質問～

- 1** 子育て心育て講座を5月8日～9月11日で5回やられたが、参加者はどのくらい？
(申請者) 回ごとに違いがあるが、多いときは40名、15～16名のこともある。
- 2** 講座の受講費10万とある。3000円が講座の基本額かと思うが、その算出根拠は？会場費5万円は？無償分労力の1時間1000円の根拠は？
(申請者) 会費は5回全部受ける方が3000円、1回ずつの方は1000円。
(委員) 何人何回で10万円になったか？
(申請者) 予算の担当者、責任者が立てたので詳しく分からない。
(委員) 公金なので、これだけかかるというのが目に見える形で表現した方が良くと思う。

- 3** 添付資料に昨年度の収支決算書が入っている。事業収入0、研修会事業0になっているが、15年度はこういう事業は行わなかったのか？
(申請者) これから発展するというので、今までは講座中心でこれからも定期的に続けていく予定だが、大勢の方対象に講座ではなく読み聞かせのようなものとか、シンポジウムを将来考えているという見込み。昨年度は出来なかったのだから今後考えていく。



5

視覚障害者対象 X P ノートパソコン講習

(申請者：視覚障害者パソコンサポート A L T (オルト) 宮嶋峰子)



音声ソフトを使ったプレゼンテーション

- ◆ オルトに来ている受講者は中途失明、将来失明する弱視者が多いので、ほとんどが点字を読めない。私たちに当たり前のことが、視覚障害者の方もパソコン操作を身につけることにより可能になる。
- ◆ 電子メールを習得し、他人の手を利用していた手紙が自分で開封し、音声で読める。入力文字を読ませながら書いて出すことも可能。
- ◆ インターネットで最新の新聞を読んだり、世の中の情報を音声で読ませることができる。日記なども書ける。
- ◆ 自分の力で情報を取ることに喜びを感じてもらっている。
- ◆ 現在、学習センターで、一般の人でも利用するデスクトップパソコンで指導しているが、マスターした人から順にノート型パソコンでの講習に切り替え、起動方法、キーの配列を体験。実際に1人でできるようにマンツーマンでの指導を行う。ノートパソコンのキーボードはフルキーではなくコンパクトになっているので練習が必要。
- ◆ 視覚障害者はキーボードのみを使用。スタートの状態から読み始めることが必要。それがPCトーカーというソフト。他にも何種類があるが、聞き取りやすくインターネットも読めるのでこれを使用。
- ◆ 講習修了者の買うパソコンは持ち運びの出来るノートパソコンになる。スイッチを入れた時から音声で使えるようになるソフトを入れたノートパソコンでの学習は、実際に自宅で使うときに役立ち、実践するために必要な学習と考えている。
- ◆ パソコンの起動時の画面を読めないことにはソフトにたどり着けないので、それが読めるソフトを入れなければならない。

申請内容

- 事業の目的：視覚障害者がノートパソコンを操作出来るまでサポートする。
- 事業の内容：X P ノートパソコンと音声ソフトによるパソコン指導
- 対象者：主に大和市民
- 事業期間：H16.10.1～17.3.31
- 活動場所：主に大和市内
- 拠点場所：大和市内
- 実施体制：生涯学習センター 3 F パソコン室において視覚障害者とほぼマンツーマンの形でパソコン指導を行う。
- 事業の効果：視覚障害者が実際にノートパソコンを購入された時、インターネットでニュースを聞いたりEメールを日常的に行うことが出来る様になる。
- 補助希望額：193,070

～選考委員からの質問～

- 1** 生涯学習センターのデスクトップパソコンの利用方法は？ ソフトはPCトーカーに決めているのか？ IBMのノートパソコンをどうして選んだのか？ オルトがノートパソコンを持つ必要性は？

(申請者) 学習センターのパソコンは大和市民に一般に開放されているものを予約して利用。音声を使うのでその時間を占有し、音声で使える状態に設定し、また元の設定に戻す作業が必要。来ている方にPCトーカーの音と2000リーダーを聞いてもらったPCトーカーの方が耳障りがいいと言うこと。ホームページを読むときも読みがいい。キー配列が分かりやすい、キータッチがしっかりしている。トラブルが少ない。初めてパソコンに触る人が多く、パソコンをまだ持っていない。デスクトップで練習をしても、キーボードの配列が違うので、私たちが持っていないと、自分で購入するときにノートパソコンを選択できない。ノートパソコンであれば、簡単なフリーズ等であれば、私たちが直してあげられることもある。

- 2** 申請額が20万円きっかりではないのは？

(申請者) 20万円にするために、私たちに確実にかけるもの以外のものを探すが、気持ちとしてきつかったから。

(委員) 昨年度の事業費が9万円。今年度386,140円、この中で収入の分で193,070円で補助金と同額。昨年度9万円の収入が今年度は193,070円が見込まれるのか。

(申請者) ここに出すために、これをもらえるものとして計上。助成金が最高で50%だったので単純に出した。

(委員) 逆に言うと、昨年度9万円しかないのに、50%にするために収入を架空に膨らませたとどうもよくない。そういう風に見えてしまった。

(申請者) 9万円となっているが、私たちが無償でやっているものは私たちが現実に出している。昨年はあくまでも無償ということにこだわっていたので、全部自己負担。なかったということでない。これまで計上してなかったからというわけではない。実際はこれ以上のものが出ている。

6

健康増進配食サービス事業

(申請者：特定非営利活動法人シニアネットワークさがみ 理事長 古居みつ子)



- ◆ グループハウスシャロームつきみ野を拠点に活動。
- ◆ シニアネットワークさがみは、自立的な地域社会の形成を目指して、様々なニーズに応じていける活動の広がりりと、より幅の広い活動を形成していき、安心して住み続けられる地域社会をつくることを目的。ホームヘルパーサービス 住まいサービス デイサービス事業 食事サービス事業 移送サービス事業がある。
- ◆ 今回応募の配食サービス事業は、食材に生薬を加え、その効能を毎回伝えることをやって2年目。毎回、効能をプリントして細かくお知らせし、意識をして食することにより大きな効果が期待される。
- ◆ 老人会や友人の口コミだけで広げてきたが、要望にお応えして月1回から2回に対応。効能書きにご感想、ご意見をもらっているが、それが励みになり、後押ししてくれている。
- ◆ 今年度は広報活動に力を入れ、地域の多くの方々により広く知ってもらいたい。
- ◆ 月2回から週1回、それを週5回の毎日の配食サービスに発展させることで、自立度の低い方の健康維持、増進の地域貢献を進めたい。
- ◆ 配食訪問をきっかけに、引きこもりがちの高齢者等のコミュニケーション、自立支援のアドバイス、情報交換など、必要なサポートが適切に行われるように他のサービスとの連携を図っている。
- ◆ 他と違うのは薬効を取り入れていること、冷凍食品を使用しない全て手作り、安い。
- ◆ 食するというのは人を良くすると書く。地域住民の皆さんの健康増進の力になりたい。

申請内容

- 事業の目的：地域の高齢者、障害者世帯の方々へ、健康増進を配慮した食材を使用し、薬効を取り入れ、すべて手作りの食事を提供し、少しでも健やかな生活を維持していただきたい。
- 事業の内容：パンフレットを配布し、安心して食べてもらえる弁当を提供し、コミュニケーションを図り、地域住民の福祉の増進に貢献したい。
- 対象者：主に大和市民
- 事業期間：H16.4.1～17.3.31
- 活動場所：主に大和市内
- 拠点場所：大和市内
- 実施体制：ボランティア調理7名、配達3名の10名体制。
- 事業の効果：高齢者、障害者に身体にやさしい弁当を食していただき、医療、介護費用の削減効果を望んでいます。
- 補助希望額：200,000

～選考委員からの質問～

1 今回、パンフレットをつくって、何食ぐらい、活動スタッフをどれぐらい目指しているのか？(申請者)活動スタッフは現在5～6名、増えることは難しいのでこのまま。現在1回50食。回数を増やして1回に70食までは対応可能なので、月4回70食を目指したい。

2 シニアネットワークで前年度、当期利益が1,268,791円出ているとなれば、広告宣伝費をもう少し使っても、充分全体の事業計画は成り立つと思うが、何故、市の補助金の20万円が必要なのか？

(申請者)各事業毎に収支をしているので、トータルとしてはその数字が出ているが、配食サービスとしては余裕がない。

(委員)配食サービスの事業収入と支出を比べても、費用がないとは読みとれないが。

(申請者)交通費として非常に少ない額しか出していない、毎回のプリント代、什器備品に突発的にかかることもあって、そういうものの余裕を持つと...。シニアネットワークの借入金があり、そちらの返済もある。数字上では余裕があるように見えるが、実状は厳しい。

(委員)特定非営利活動法人シニアネットワークさがみ全体での助成申請ではなくて、配食サービスだけの部門での補助金申請なのか？配食サービスだけの収支決算というのがどうなっているのかがここでは見えてこない。

(申請者)配食サービス事業としての申請。

3 配食作業は無償？

(申請者)時間給を650円。時間が5時間働いても2～3時間という計算。後はボランティア。

4 パンフレットが1000部で20万、一部換算で200円で立派なものだが、この金額は見積もりを取ったものか？

(申請者)業者に聞いたが20万はかからないかもしれないと言われている。

(委員)申請書に書かれる数字の信頼性を考えると、それほどかからないと言われたなら、かからない金額を書いた方が、補助金をいただいた時に苦しくないのでは。

(申請者)分かりました。パンフレットの他に、毎回配っている印刷代とかを含めて20万。

7

つるま自然の森 tuchool (つく～る)

(申請者：『リーフパイ』代表 島田順子)

- ◆ 今年のノーベル平和賞は長く地球の緑化に携わってきたアフリカの女性に贈られた。緑を守る、環境を守ることは1～2年の短いスパンでは成り立たない。
- ◆ つるま自然の森に関心を持ち、リーフパイという自然や生き物に関する情報を発信するようになって7年。この間にワークショップを行い、多くの人に森の遊びの楽しさを伝えてきた。
- ◆ つるま自然の森は大和市と相模原市の市境にあり、大和市にとっては北のはずれという、位置的に関心の薄さがある。相模原市の人にとっては通勤、通学、買い物に通う、生活道路の森の道。
- ◆ リーフパイの3周年記念事業に講演会と合わせてピオトープを提案した。これがワークショップの始まり。つきみ野中学、大和高校の生徒、大人、子供が参加して企画を立て、森の中では竹の炭焼きを行った。竹炭焼きには町田市のシルバーセンターの協力を得て50人が参加。
- ◆ 翌年、里山の植生の第一人者、東大の亀山先生の講演会と、一緒に森を歩いて見ていただいた。先生の意見は雑木林を管理するには楽しくすること、気長にすることが大切ということ。その後のワークショップは楽しみながら遊び感覚がキーワード。大和市の市有地の広さを測る、檜の本数を数える、土の中の生き物観察、森の中にベースをつくろうと間伐し、その材料でテーブルと椅子をつくり、お披露目に今年3月にデイキャンプを行った。
- ◆ 大和市民の一握りの人にしか参加を呼びかけられていない。そこで今回の補助金に応募したのは、tuchoolというワークショップ。学校の空き時間に空き教室、例えば中央林間小学校の特別教室の工作室を活用し、土曜日がフリーの子供達に自然と遊ぶ、自然を学ぶということを出前するもの。tuchoolは次世代につるま自然の森を伝え、残すことを目的にし、子供達に先人の知恵と技を伝える橋渡しをする役割をしようと考えている。
- ◆ つるま自然の森で、新しい遊びと学びを発見し続ける。今年度申請しているものの予定は、12月に材料作りで檜の間伐。1月はそれでお箸や棒を作成。2月は太い木で植木鉢をつくり、ドングリの苗を植えて各自家で育てて、1～2年かけて育てて森に帰して森を植える。my treeを森の中に植えたい。
- ◆ 子供達が自然にまみれることで森の大切さを肌で感じ、身近なつるまの森に愛着を持つチャンス。子供達が関わることで森が100年、1000年として保全され、持続可能な活動として成長していくのではないか。



申請内容

- 事業の目的：大和市立中央林間小学校の特別教室を活用して、子供たちと、つるま自然の森を材料に、創作し造形し傑作を楽しむ。自然となじむ機会が少なくなっている子供たちに、つるま自然の森を出前して、味わってもらおう。土曜日が完全フリーとなった子供たちが、学校で、つるま自然の森を体験する。
- 事業の内容：森の体験 / ヒノキ林の間伐。自然素材の有効活用・造形。森の中での自然体験・交流活動。
- 対象者：主に大和市民
- 事業期間：H16.12.11～17.3.12
- 活動場所：主に大和市内
- 拠点場所：大和市内
- 実施体制：中央林間小学校特別教室(工作室)、つるま自然の森市有地内。
- 事業の効果：
 - 子供たちが地域 - つるま自然の森 - で育てられる。
 - 自然の教育力が発揮され、豊かな感性を持った子供たちが育つ。
 - 自然の教育力とは
 - ・自然という多様なものを相手にすることで、しなやかな体づかいが身につく。
 - ・五感が研ぎ澄まされる。
 - ・豊かな感性が育てられる。
 - ・好奇心がかき立てられ、そして体験することで満足が得られる。
 - ・自然に親しむことから、自分のいのちだけでなく、他のいのちの大切さを学ぶことが出来る。
 - ・これらの体験によって、生きる力を獲得する。
 - 「森」の出前は、中林小・特別教室の有効活用であり、地域の大人と子供たちが一緒に、創造 / 造形 / 傑作づくりに取り組み、自然体験のきっかけ作りとなる。
 - 地域 - つるま自然の森 - もまた、次世代の子供たちによって生まれ、活動が広がる。
 - 子供たちが自然にまみれることで、森の大切さを肌で感じ、身近にある「つるま自然の森」に愛着を持つチャンスである。
 - これは100年の森、1000年の森へと続く、森の保全の啓発であり、持続可能な活動となる。
- 補助希望額：200,000

～選考委員からの質問～

- 1** 子どもたちが参加する参加費は？保険は？
(申請者) ボランティア保険を使っている。独自にリーフパイとして支払うことは必要ない。
(委員) 市民活動保険とかリーフパイの方が保険に入られていて、リーフパイの方の責任において、事故が起きた場合はそれを使うということ？
(申請者) そうです。
(委員) 参加費は取ってない？
(申請者) 今は参加費100円もらっているが、それはジュース代。消費税は自腹。
- 2** 補助金の使途は？12月から3月まで催しをする事業計画に基づき、20万円の備品を購入したいということか。補助金を使って事業を立ち上げるといことだが、将来の担保性はどうか。
(申請者) 備品購入。どこの会でも永久に、みんなの命がある限りやりたい事業だと思う。森を保全することは1～2年で終わらない。私の次の人にバトンタッチをして道具を渡して、ずっと続けていくことを目標。ただ、単年度と言われたので、今年の方で申請した。
(委員) 組織の状態がどうなってるのか？リーフパイの継続性を客観的に、メンバーはどういう風に引き継いでいくか、説明して欲しい。
(申請者) 今まで7年間やってきたが、私がやめれば終わってしまう。次の候補にお願いしたいと思うが、今まで私が自腹でやっていた仕事を、そのままあなたも自腹で引き継いでとは言えない。ここで補助金があるので、一度整理して、次の人に引き渡せるチャンスだと思った。

- 3** 備品を買ってそれを継続的に利用するにはランニングコストがかかる。会費やカンパの状況を見ると、それをまかなえるだけの体力がないと見受けられる。せっかく補助をかけたものがさびていくことは悲しいので、その継続には努力して欲しい。受益者負担とかの部分も考えて欲しいが。
(申請者) 森の中の作業について、一般の募集の場合はあなたの労力で楽しんでね、ということではなかなかお金がもらえない。ワークショップの場合は出来上がったものは自分で持って帰れるので、そのときは材料費をもらって貯めて事業費に充てることは考えられる。そういう活動にお金を出すことはみんなの気持ちがいきにくいので、今まではお金を出さなくてできることをしていた。もらえるものはもらい、少しずつ貯めていったりカンパをもらったりしている。

- 4** 道具を保管する場所は？
(申請者) コミセンに置かせてもらえないかと考えている。刃物なので人がいない所に置けない。鍵のかかる倉庫が欲しかったが、小さなボックスを買ってうちの庭に責任を持って置きたい。複数のボックスにすれば、2人～3人で管理も可能。また、つま自然の森での活動をしている他団体にも貸し出せると考えている。



補助金決定のプロセス

原則としては申請金額通り補助しますが、決算の際に補助金の使途について報告していただき、補助内容に相応しくないと判断される場合は、その金額について返還していただくこととします。
補助対象事業のすべての申請金額が限度額を上回った場合は、「はぐくみ」部門への申請者すべてから、申請金額を一定率減額することで調整します。
申請金額の内容について不明な点がある場合は、事務局より内容の説明を求める場合があります。

今後の流れ

選考会の結果を基に、補助金の交付要綱に基づく交付申請書を提出してもらいます。(補足資料を事務局で整理をして申請書と一緒に提出)
申請を受けて正式な手続きをし、11月下旬を目安に交付する予定です。
事業が終わった後、決算等の事業報告をしてもらいますが、支出の根拠となるものを添付してもらうことと、無償部分計上しているところは、計算根拠の内訳を出してもらいます。
報告書を提出するだけでなく、交付金を受けたことでどういう事業になったかを、皆さんにアピールしてもらう報告会にも参加していただきます。それも一つの条件です。

8

インドシナ難民定住者を対象とした相談支援活動

(申請者：特定非営利活動法人かながわ難民定住援助協会 会長 櫻井ひろ子)



- ◆ 大和市は外国人定住者が約6,000人で県内で4番目に多く、インドシナ難民定住者は横浜について2番目に多く、現在679人。
- ◆ (財)アジア福祉教育財団難民事業本部大和定住促進センター初代所長が中心になり、センター退所後のアフターケアのボランティア団体として活動開始。設立は1986年12月。
- ◆ ボランティアの日本語教室の開催、日本語ボランティアの養成事業、難民定住者対象の相談事業、難民定住者のイベント・交流事業、広報誌の発行、翻訳者・通訳者・講師等の人材紹介。
- ◆ 抱える問題として 市役所等の行政窓口での読み書きに支障。地域からの孤立。失業等の生活苦。二世、三世の教育問題、アイデンティティの損失、就職、結婚、子育て。戦争によるトラウマ。一世の高齢化問題。
- ◆ 相談事業は二種類。生活相談。週2回で相談員は6名がボランティアで対応。入官手続き、雇用問題、福祉関係の相談が主。法律相談。月1回でボランティアの弁護士が2名。結婚離婚問題、交通事故、在住者資格等の相談が主。
- ◆ インドシナ難民の受入事業は平成17年で終了を予定しているが、今後も継続的な支援が必要。
- ◆ 補助金の資金を得られたら、関係諸機関とスムーズな連携が図られ、定住者の方々の問題が解決し、住み良い地域社会の構築ができると考えている。

申請内容

- 事業の目的：インドシナ難民定住者とその家族が日常生活で起こる様々な問題に対して、定住者自身が主体的に問題解決が出来、地域で自立定住が促進されることを目的。
- 事業の内容：大和市より補助を頂いて当該事業を実施することで、広く市内の外国人定住者の問題解決が図られ、自立定住が促進される。それによって他の関係各機関との連携・協力も今まで以上に発展すると考える。
- 対象者：主に大和市民
- 事業期間：H16.4.1～17.3.31
- 活動場所：主に大和市内
- 拠点場所：大和市内
- 実施体制：法律相談会：弁護士2名、通訳3名、協会スタッフ2名 一般相談会：相談班6名
- 事業の効果：専門家による法律相談を始めて9年、生活/一般相談班が出来て5年が経ちました。法律相談は弁護士のアドバイスだけにとどまらず、ボランティアが弁護士による調整の場につき添うケースが多くなり、スタッフの不足が深刻です。複雑な問題に対応できるような体制を整えることで定住者への支援も充実し、地域社会への参加も用意になることから、定住者の自立定住促進が図れると考えます。
- 補助希望額：200,000

～選考委員からの質問～

- 1** 今回、20万円を投入することで、事業がどうなるのか、もう少し表現してもらいたい。
 (申請者) 大和市の活動助成金をいただき、広く関係機関の方々にも、こういう団体があることを周知していただき、当事者の方々にも窓口を活用していただきたいと思い、申請した。
 (委員) 弁護士の謝金が一人分計上されているが、今二人で、次は三人になるということではないのか？
 (申請者) 複数の弁護士さんになるよう、活動していたが10年間でやっと一人増えた状況なので、ここ1～2年で増えるのはちょっと無理かと。
 (委員) ここの弁護士謝金10,000円は、通常の計上されている支出をこちらでカバーすると考えてよろしいか。
 (申請者) 一人増えたので、今回二人分ということで、当協会の事業費と合わせて今回、こちらの申請した。

(委員) 16年度の予算書がないのでわからないが、相談費はもともと一人分しかなかった？

(申請者) そうです。

2 法律相談集計、68名のうち大和市在住の人は？国際化協会の法律相談との連携は？

(申請者) 全員ではないが、ほとんどが大和市在住の方。大和市国際化協会との連携としては相談事業以外での連携もあるので、相談事業と言われると、通訳や翻訳の紹介になる。

3 今回の補助申請20万円、弁護士に関わることで他団体に補助申請をしているものがあるか。大和市国際化協会でも補助事業をやっているが、そちらへ補助申請をしているか。

(申請者) 相談事業に関して、他団体に申請はしていない。相談事業以外だと国際化協会へイベント関係で申請している。

選考委員によるシール投票

～ 3票以上集めたところは補助対象となります。それぞれの応募事業に対して確認したい点をポストイットに書き出し、質問や応援説明等のやりとりをし、最終的にすべての団体が補助対象に決定しました。～

選考表		手塚委員	平塚委員	益永委員	渡辺委員	清水委員	一次選考計	二次選考計
めばえ	1 オーロラ	♥	♥	♥	♥	♥	5	5
	2 ひよどり	♥	♥	♥	♥	♥	5	5
	3 リアライズ	♥	♥	♥	♥	♥	3	5
はぐくみ	4 カンパリングコミュニケーションサポートセンター	♥	♥	♥	♥		4	4
	5 ALT(オルト)	♥	♥	♥	♥		3	4
	6 さがみ	♥	♥	♥	♥	♥	2	5
	7 リーフパイ	♥	♥	♥	♥		4	4
	8 かながわ難民定住援助協会	♥	♥	♥	♥	♥	4	5

(♥ に ♥ があるものは、最後に追加して貼られたもの)

6 シニアネットワークさがみ

確認したい点で出されたポストイット

- 要内部検討(手塚委員)
- 配食サービス事業としての収支計算書が欲しい。(借入金があったらそれも入れる)(渡辺委員)
- パンフレット作成はきちんと見積もって。(益永委員)
- 配食部門だけ、単独経理できるのか?(清水委員)

会場でのやりとり

(申請者) 収支については、私たちシニアネットワークさがみの事業が4つあり、それぞれ単独会計収支なので、配食サービスだけの収支の提出はすぐに出せる。

(渡辺委員) 協働事業の申請をした時に関わらせていただいた。しっかりやってるし、現場に行ってみてもそう感じているので貼らせてもらっている。ただ配食サービスとしての収支決算がついていたら分かりやすかったの、確認したい点としてあげた。

(清水委員) シニアネットワークさがみも配食サービスの状況も知っているの貼ろうかと思ったが、補助申請自体がシニアネットワークさがみとしてされると、その中に相当な管

理費を持っている。それを配食サービスの管理費に充当すればいいじゃないかという理屈が立ってしまう。シニアネットワークさがみとしての申請ではなく、配食サービス部門として申請してもらい、単独経費を出してもらえばいいのではないかと。

(益永委員) この議論が大切で、私も条件付きで貼ろうと思ってたんです。

(平塚委員) シニアネットワークという団体に、協働事業の申請の時から興味を持っている。何で協働事業にならなかったのかと言うと、地域エリアが狭いし、大和市全般を見ていないということで、私としては惜しいなと思った。今回申請してもらい、嬉しい。応援したい。24頁のところのパンフレットの作成20万というのはきちっとした予算書にはなってな

いかかもしれないが、この中でやっていきたいんだと、パンフレット、広告費をこの20万円を目安にやっていきたいという、一つの目安として読みとっていただきたい。配食サービスの中の収支計算書30頁の中で、配食サービス1,228,418円の収入と、31頁の1,105,812円の支出で、その差が利益が出てくるんじゃないかとあったが、細かくもっと見ていくと、管理費の中で配食サービスの光熱費をプラスしても、限度というよりむしろ自分たちで出している、配食サービスの1500食つくるわりには光熱費が非常に安い。こんなので出来るのか？細かく見ていくと、いろんなところで低く収支を書いてあると。もっときちんと本当の額を書いても良かったのではないか。こちら辺からも団体の人間性というか愛が伝わってきた。その数字の裏に隠れているものを考えて欲しい。

(宇津木推進委員) 堅い話で言うと、申請はシニアネットワークさがみで出ているので、途中で訂正していいのかという問題がある。どこまで訂正できるか。理想的にはシニアネットワークさがみ全体の収支に加えて、配食サービスの収支の構造が分かる、補助的な資料が付けられれば充分。平塚さんの言うように、ここで見れば配食サービスで上がってない経費分は当然管理費から出ているので、そこから辺で全体で見てもいいのではないか。手続き的な問題と、内容的にも問題がない。配食サービス単独の収支が付いていればなお良い。これは応援演説。

(平塚委員) 後日、事務局の方から申請書を書く段階でアドバイスがあるかと思われる。今回は問題ないと思う。

1 オーロラ

会場でのやりとり

(司会) ポストイットも貼られていないし、シールも全員貼っているので決定です。

2 ひよどり

確認したい点で出されたポストイット

- 書類の不備 (手塚委員)
- 考えていた事業は、研修を考えていたら支出に計上してもらうことを事務局が助言した方が良かったのでは。(益永委員)

7 リーフパイ

確認したい点で出されたポストイット

- 保険はぜひかけて下さい。(手塚委員)

会場でのやりとり

(事務局) 補足説明。先ほどリーフパイの方にも説明したが、市民活動課でボランティア保険、市民活動保険をかけている。これは全市民対象で市が一括でかけているものだが、あくまでボランティア活動をしている方を対象。子どもたちなど参加者は対象にならないので、そこを考慮してもらうようにお話しした。

(申請者) 了解しました。

会場でのやりとり

(手塚委員) 書類の不備は、申請書の中に「事業に関する経費の部分で、無償部分は根拠となる書類を添付して下さい」というのがあるにも関わらず、下に「無償分の積算根拠は特にない」と書かれている。これは正直言うと書類の不備でしかない。こういう表現で補助金申請をすることはこれから先はやめてもらいたい。書類はしっかり添付すること。

(事務局) ご指摘のように、事務局の不備。申請者の書類には書類としてはないと書いてあったが、書類を計算するとだいたい4万円がこれが根拠になるものと判断し受け付けた。逆に言えば事務局の方の不備。きちんと指導したい。

(申請者) 分かりました。



3 (特)地域総合スポーツ倶楽部 リアライズ

確認したい点で出されたポイント

■ 今後の活動の広がりをどのように組み立てるか？（清水委員）

会場でのやりとり

(手塚委員) 地域スポーツについては国レベル、地域行政レベルの取り組みがあり、たくさんの方が参画される。個人的にやれるところからNPOを始めると思う。これから地域スポーツという大上段にたつての活動に期待したいと思うとともに、地に足の着いた活動を順次進めていただきたいと思った。

(益永委員) 大変迷った。とりあえず任意の団体で、ネットワークを少し努力されて、また来年エントリーしていただけるといいのかなと。バスケットボールチームから始まって、スポーツが縦社会だからという発想からでは厳しい。今年は任意の団体で頑張っていただけたらと思って貼らなかった。

(清水委員) やっている活動は素晴らしいと思う。特にスポーツやって怪我されたフォローは大事。気になったのはバスケットに限っているということ。他のスポーツにどうやって自ら求めていくのか、コメントを聞いた上で貼ろうかなと思った。今後の広がりを持たせる仕組みづくりをコメントしてもらいたい。

(申請者) 商売をやっているんで、みどり野のサッカーチームがお客さんとして来ている。取材で本に載ったものを配り、我々の活動を紹介したりして、講演を聴きに来て下さいとか。我々の活動を紹介した上でどうやって手を組んでやっていくか。野球や柔道を教えているような人もいる。では柔道とボール競技をどうやってつなげていくかという話し合いを何回かしている。会話を何回も繰り返していきたい。いろんな形で話し合って、団体同

士でつながっていかないと、ダメになったときに傷つくのは子どもたち。いろんな形で話し合いを今、すすめているところ。

(益永委員) 今の話ではやはり引がかかる。スポーツはあくまでも手段で、健康や医療や栄養面や礼儀を人としてのコミュニケーションとおっしゃっていたので、ジャンル毎のスポーツではなく、その1点で広げていったらいいのではないかと。30人の会員がいて、市川さん以外の会員が他のスポーツの人に、どんなスポーツでも同じ、大事にしているところでつながってこうということなら貼りたいが、いかがですか？

(申請者) 父兄の方々のつながりはそれで広がる。実際の子どもたち、現場の子どもたちがどうやって選手同士が目を見て話さなくちゃいけないか、それを教えるのは現場で。子どもの目を見て、コーチが話して、それを実感した子どもたちがごめんなさいと言える、そういうことをやっていることを父兄が分かる、それをスポーツ倶楽部に入っていない父兄に伝える、そういうのを広げてもらいたい。バスケットだけではなくスポーツの基本、人間の基本のはい、ごめんなさい、私がやりますとか、小さい頃から覚えてもらって。そういうことを教えている団体がバスケット、サッカー、スポーツを私は基本にするが。それを身に付いたお母さんが、スポーツ倶楽部に入らないお母さん方に会話が広がることを考えている。子どもの教育をお母さんに理解してもらい、広げてもらいたい。

会場からのご意見

(p15参照)

■ 応募の説明後の質問が、選考委員だけである事は、関心を持って参加して頂いた方々に失礼ではないか。再検討を願いたい。市民の大切な資金を使う以上、時間を掛けても良いと思う。

■ ALTへ音声ソフトを再検討。書いたものを読むのではなく、自分の言葉で語りかける事が必要。心に響かない。



■ 応募内容に対する選考委員の質問は、プレゼンの事前に行い、参加者には既に協働事業を行っているメンバーもいるので、意見とアドバイスもしたい。このままのやり方では参加者の増加は見込めないと思う。

4 (特)カウンセリングコミュニケーションサポートセンター

確認したい点で出されたポイント

- 収支の見直し要。(手塚委員)
- 講座(案)ごとに予算を立てて欲しい。(渡辺委員)
- 予算の算出理由ははっきり表現されないと信頼しにくい。(益永委員)

会場でのやりとり

(手塚委員) 講座の受講費10万円が理解に苦しむ。もう一度収支計算を。30名きちんととれるのなら18万円であろうと思われる。会場費も前回の予算書で7万円だったのが今回提出されたものでは5万円になっていたり、照合性に欠けるものが多々ある。今回ではなくてもいいからこの助成金を使った後、きちんとした報告書をつくることを望む。

(渡辺委員) 収支予算書で、これだけ講座案が出てきているので、講座毎に予算案を立てたら分かりやすいのではないかと。条件付きで貼った。例えば思春期講座で、20名で1回にいくらか、そういう風に詳しく出した方がわかりやすかった。それが講座案を具体化することになったのでは。

(司会) 内訳の書き方のようなので、事務局の方で確認してもらおうということ。

5 視覚障害者パソコンサポート ALT (オルト)

確認したい点で出されたポイント

- 講習会の募集をどのようにしているのか。(渡辺委員)

会場でのやりとり

(渡辺委員) 審査の基準の発展性、継続性というところで。協働ということを含めて、講習会の宣伝、募集をどのようにしているのか。

(申請者) 学習センターにポスターを貼ったり、ポラセンや障害福祉課に置いてもらっている。そこから電話をくれる人もいる。生涯学習センターが窓口になってくれている。後は広報。今、来ている人の口コミもある。広報

も大事だが、口コミが大事。障害者の方はそのグループでまとまる傾向があるので、できるだけその中に入って宣伝し、ご家族にも伝えてもらっている。

(渡辺委員) 市民活動で大事なものは人と人のつながりでどう広がっていくかということだったので、貼らせていただきます。

8 (特)かながわ難民定住援助協会

確認したい点で出されたポイント

- 協働事業の意志の確認。(渡辺委員)
- 補助金の必要性を再度伺いたい!(清水委員)

会場でのやりとり

(渡辺委員) 先ほど、休憩時間に伺い、協働事業の意志の確認は取れた。

(清水委員) 先ほどの説明で、弁護士2人にしたことでその経費にするのかという質問への答えがあいまいだった。全体の経費の不足分の補填だと、単なる運営費補助になってしまうので。要するにこういう事業をするので、こういう経費がかかる、そこにこの補助金をあてたい、だから今回申請したんだというところをもう少し明確に説明してもらえれば、貼ろうかなと思っている。

(司会) 新しいことが、このお金を出すとできるという風になって欲しいという清水さんの思いがあるようですが。

(申請者) 補助金の必要性だが、一番大きな理由は弁護士が1人増えるということで、ここで活動をもっと大きく発展させていきたい。信用性がない。外国人定住者が多い大和市で、こういう活動を地道に続けているので、今後の問題について大和市役所と連携して外国人の方々にとって住み良い地域になるよう、一緒に連携していきたい。

選考会を終えて、今日の振り返り

～選考会を終えて、今日の選考会について会場からご意見がありました。その後、助成を受けることになった各団体から抱負と選考委員よりコメントをいただきました。～

会場

私は資金部会には最初からオブザーバーとして参加している。今年4月にうちは協働事業としてやらせてもらい、今は資金は必要なくなったと思っている。今後、市民の皆さんに募金をお願いしていくことになるので、市民がもっと参加してくれると今日は期待して来たが、推進委員と提案者ばかり。もっと開かれた市民の方々が大勢来る必要がある。もう一つは、選考委員の質問は結構だが、他の段階でも出来るのではないかと。市民の方々がもっとこの場にいれば、その方々から質問が出て良いのではないかと。今日の進行、やり方については、この次の段階でもっといろんなことが取り入れられていいのではないかと。

委員長

参加者が少ないと言っても8月の説明会から、これだけ広がったという実感がある。もう少し長い目で見て我々の活動が浸透していくため、応援をお願いします。補助金申請という場を設けること自体、私も申請した人も戸惑いが多かったと思う。公の慣れない場だが、これも場を経験を積み重ねていながら、市民事業をやっている、新しい公共を担っているという実感が得られれば…。ここに居る方々は、営利目的ではなく市民の生活を考えて来ているということが、一つ一つの案件を聞いていて思った。私に出来ることは何なんだろうと思いつつながら全てが補助対象になった。

推進委員

もっとたくさんの市民の方が参加するのは理想。それにはみんなでこの選考会の実況を伝えていくことが必要。口コミも重要だが、メディアが取材に来るなど、こまめにやらなければ。その意味では協働推進会議で広報のための部会をつくるか、担当者を選ぶ等を考えなくてはいけない。プログラムの中で、申請者に対しての質問時間が3分とすると、あと2～3分、参加者からの質問や情報提供などをして申請者同士のネットワークをつくる、市民が活動に参加するなどの機会を折り込んだプログラムが考えられないか。事業費の問題はこの補助金助成の趣旨が、申請者にうまく伝わってないと思った。一般的な運営費の補助となると、それは趣旨と違うという話を上手に伝え、これでパンフレットをつくと、その後の事業にこういう風に役に立つというふうな、スパッとと言えるような表現してもらわないと話が見えづらくなる。それを事前に上手く伝えられれば良かった。

1 オーロラ
いただいた補助金を活かして、これから広がる方に心がけていきたい。

2 (特)ひよどり
はじめてのことでドキドキ。公費をいただいてどうやって協働に結びつけるかが、今立ち上げで目一杯の私たちにとって、始まってからの宿題だと思う。この補助金を活かしていきたいと思う。

5 視覚障害者パソコンサポート ALT (オルト)
障害者相手にずっとやってきている。アピールもしたいが障害者ということでプライバシーにもかかってくるので、ひっそりとやっているようなところもあるが、まだこれからも頑張っていきたい。

6 (特)シニアネットワークさがみ
協働事業に続いて、また2枚しか貼られていなかったのも、恐怖のどん底に落とされておりましてけれども。皆様の暖かい気持ちと、私たちの地道な活動が分かっていたことが非常に嬉しい。いただいたお金は大事に使いました頑張っていきたい。

7 リーフパイ
今まで継続してきたことが財産だったが、これからは現物の財産も出来るので。これを私たちだけが使うのではなくて、他のチームに使ってもらえるような場所に保管しておければ、もっと広い活用が出来ると、委員にアドバイスをもらったので、安全なそういうところを探して、もっともっと活用していきたい。

8 (特)かながわ難民定住援助協会
普段、自分の活動にどっぷり浸かっているのだから、こういう場で新鮮な目で自分たちの活動が、どう見られているのかとか、どういう点が足りないのか、どうやって自分の活動を伝えればいいのか、いい勉強になった。いただいたお金で今後もいい活動をしていきたい。



3 (特)地域総合ｽｰｯ
倶楽部 リアライズ
参加してみて、こういういろんな団体があり、自分のところの所ではなく、このグループの中で横のつながりも取れるんじゃないかとイメージをとらえた。またこういう機会があれば参加したい。

4 (特)かみりッガ コミュニケーションセンター
まだスタートしたばかりなので、何をどう細かく計算していいかわからず、概算でやってしあっているが、それは宿題だと思っている。子どもたちのためだけでなく、市民全体が1つになれるように私たちも頑張ってお金を食いつけてやっていきたい。資格も自費で心理士の資格をとって無償でやっている。横のつながりで年に1回でも協働で何かできたらいいと思う。



会場から問題提起もありましたが、公開選考審査をこれからも進めていきたい。審査をする時には胸が痛く目がつり上がっていた気がするが、皆さんの最後の言葉を聞いて、「ああ良かったなあ」と思った。ここに来て、顔を合わせてそこからネットワークが広がるという話を聞いて良かったと思う。

めばえの方々はこれからまたはぐくみの方で申請できるので、一所懸命、はぐくみの方の申請をお願いします。はぐくみで今回申請された方も、一事業について一件なので、もう少し経ってから申請ができるので、また申請していただきたい。



益永委員



渡辺委員



手塚委員



平塚委員長

私も地元で活動して、つつい自分はいいいことをしていると思いがちなので、それを人に分かってもらうよう言葉で、限られた時間で伝えることは大事だと思う。そのことをこの町の人で共有でき、新しい公共の担い手としての今日の基金をもらえたことが誇りになりこれからも活動が発展していったいただけるのかなと、とても嬉しい結果になった。

私の町ではこのような取り組みは一切するつもりはないと言われているので、うらやましい。大和市の取り組みは神奈川県の中で特出して、公共という文言から考えているということが素晴らしいと理解している。この独自の路線でしっかり地に足を着けて、市民と一緒につくり上げる公共を、隣からひっそりと拝見させていただきながら、時々仲間に入れてもらえたら嬉しい。藤沢市のセンターにも是非、足を運んでいただきたい。

ご意見カード

～最後に、本日の公開選考会へのご意見カードを書いていたいただきました。～

- 初めてのことでした。勉強になりました。ありがとうございました。想いを言葉や具体的な計画に作り上げて、実行してゆくことの難しさを感じました。又、公費を頂いて事業をすすめて行くのに必要な視点や、つかまえて形づくる部分が弱いことも分かりました。これらを持ち帰り、またメンバー全員で共有して行きたいと思えます。
- 新しい試みとして、公開選考会の意味を会場に居て、改めて再確認いたしました。新しい公共、協働が少しずつ浸透する事で、現場で活動する市民や市民団体の人々の意識をも変え、質を良くし、市民が住みやすくなる社会となると、明るい希望になりました。
- 協働事業、市民事業、地域の底力事業...なるべく一緒にやれるようにしましょう。
- いつも自分たちの活動にどっぷりつかっているので、外部の方の新鮮な目で見るということはとてもいい勉強になりました。今回は初めての会なので、一般市民の方々の参加が増えることを願っています。
- 市民活動の方々の意見などを聞いて、大変勉強になりました。ありがとうございました。大変よく皆さんの活動がわかりました。選考委員さんの厳しい中にも愛情ある対応に感謝です！
- 市民活動がこの様に発展し継続していていることがわかり、勉強になりました。私達もさらなる発展をめざし、がんばりたいと思えます。ありがとうございました。
- 申請者グループの一員として参加したが、市内の様々な市民活動の状況がわかり、良かった。市民活動のスキルアップの場とし、非常に有効な場と感じた。新たな活動が生まれてくるための、うながしの制度のひとつとなればいいなと思えます。
- 筑地さんの御意見ごもっともと思えます。ただそうするためには確かに時間がありません。不足な資料や疑問点等で、あらかじめ質問出来るものは事前にやっておいて、直接、フェイス・トゥ・フェイスでの質問だけを会場でするといいという事になれば、少しは時間が出来て、参加者の方のご意見も聞けるのでは...と思えます。本日はどうもありがとうございました。頑張ります!!
- 大和市内の様々な市民活動の発表があり、感銘を受けました。市民活動にとっても貴重な指摘があり、良かったのではないかと思います。
- 補助金の公開性が明確で、本方式はまことにけっこうだと思えます。ただ(当然ながら)、経理内容等に質問が集中しているようでしたが、その申請内容(事業の意義)について、今少し賛意、質問等があってもよかったかなと思うことでありました。
- 本日はありがとうございました。めばえのオーロラさん、ひよどりさんには感動しました。今年度はめばえで申請されているので、金額が小さいですが、来年度はぜひはぐくみで大きな助成を受けられ、団体のメンバーの方々の負担をできるだけ軽減され、活動が継続されることをお祈りします。